

なつかしの 学び舎



平成5年、町内の4つの幼稚園を新設統合して開園、『ひとみどり・ふれあい』をテーマに、地域に開かれた幼稚園として、さまざまな取り組みを意欲的に行っています。平成14年度より3歳児保育を実施するとともに、自然の中で「いのち」「くらし」を体験する教育活動、パソコンに慣れ親しみ活用できる基礎づくり、英語による国際理解教育にも力を入れ、幼・小・中連携の異年齢・異世代交流教育、幼稚園全体の協力体制を高め、幼児一人ひとりの発達に応じた指導を行うチーム保育の充実も図っています。平成12・13年度には、国立教育政策研究所の委嘱を受けて、研究園として発表を行い、保育内容の充実に努めました。

みはら大地 幼稚園



明治6年、黒山村大念寺に第22狭山郷学

分校として設立。明治11年、黒山小学校と改称し、昭和5年には黒山尋常高等小学校、16年には黒山国民学校、戦後の22年には黒山村立小学校と改称を重ね、昭和31年、美原町制施行により美原町立黒山小学校となりました。黒山小学校では、1・安全で信頼される学校として、地震や火事、不審者の侵入などの不測の事態に対応 2・算数科を中心に少人数での学習を推進し、確かな学力を育成する 3・豊かな心を育むの3つを柱に学校運営を進めています。

黒山小学校



平尾小学校



明治6年、河内国第97番小学校として正念寺に開校、8年に平尾小学校、20年に平尾尋常小学校、昭和に入ってから、7年に平尾尋常高等小学校、16年に平尾国民学校、戦後の22年には平尾村立小学校と改称を重ね、昭和31年、美原町制施行により美原町立平尾小学校となりました。「人権尊重の心を持った、人間性豊かな子どもを育てる」優しさあふれる学校に「」を教育目標に、1・基礎学力の定着 2・さわやかなあいさつの習慣化 3・仲間づくりの推進を柱に学校運営を進めています。「平尾つ子ふれあいフェスティバル」は、人間性豊かな子どもを育てる大きな力となっています。

北小学校



明治5年、河内国第29番小学校として設置され、9年に河内国丹南小学校、22年には丹南尋常小学校と改称。昭和に入ってから、15年に高等科を併置し丹南尋常高等小学校、翌16年には丹南国民学校、戦後22年には丹南村立小学校と改称を重ね、昭和31年、美原町制施行により美原町立丹南小学校となり、39年に北小学校と改称しました。「自ら判断し、実践する豊かな人間性のある子どもの育成」を教育目標にかかげ、「命(体・心)を大事にする子ども」像の具現化をめざして、これからも、体力づくり・健康増進に向けての研究実践を進めていきます。

府営住宅の建設による人口の急増で、八上池を埋め立て、昭和36年に開校。『心ゆたかにたくましく』の教育目標を達成するため、「よく考え進んで学習する子」「友だちと支えあい 共にたかめあう子」「ねばり強くなにごとにもがんばる子」に育てることを目標にしています。特に、算数を中心に確かな学力の定着をはかり、「八上つ子フェスティバル」などを通じて仲間づくりをすすめる、養護学級との交流、車いす体験、特別養護老人ホーム「美原荘」やワークセンター「つづ」との交流などを通して、お互いに支えあい助け合って生活できる社会を築くことの大切さを学んでいます。平成17年度には、2階建ての新校舎が建設予定です。

八上小学校



西小学校



昭和56年に開校した西小学校は、平成15年より、文部科学省から、科学技術・理科教育推進モデル事業（「理科大好きスクール」事業）、大阪府教育委員会から「わが町の誇れる学校づくり」推進事業の指定を受けています。研究テーマは、「理科好き！な子どもを育てよう！豊かな自然体験と有機的な地域連携を活かして」。府立農芸高校や地域のみなさんの協力による自然体験学習や勤労生産学習を特色の一つとして位置付け、全学年が学校菜園で野菜作りを、また3年～6年生が、農芸高校のご協力のもと、田植えから稲刈りまでの米作りの体験学習を実践、これらの取り組みを基盤として、これからも理科好きな子どもを育成していきます。

美原中学校



昭和33年創立の、町内で最初に開校された美原中学校は、「人権尊重の精神を基盤とし、1・正しく判断し、行動できる生徒2・自ら学び、自ら高める生徒」という学校教育目標のもと、「夢と感動にあふれる学校、学校へ行くのが待ち遠しくなるような学校作り」をめざしています。そのために、1・英語、数学の授業において、習熟度別の少人数授業を展開するなど、基礎学力を大切にする。2・「明るく楽しく元気よく！」をスローガンに生徒会活動の活性化など、生徒指導の充実。3・「車いすダンス」や「聞き取り学習」など、人権総合学習の時間の充実。などを柱に、学校運営を進めています。

西中学校



昭和47年、美原中学校より分離独立して開校。西中学校では、生徒たちの多感な思春期である中学校3年において、「自分を大切にできる力」「違いを認めることができる力」「気づきから行動へ移せる力」をどのように育んでいけばよいのかという点を強調し、新学習指導要領のもと、総合的な学習の時間の枠のすべてを、「人権総合学習」として取り組み、「人権尊重の精神を基盤とし、心身ともに調和の取れた人間の育成」をめざし、地域とともに生きる喜びを育てる、開かれた学校づくりを特色として、教育活動を進めています。平成14・15年度には、文部科学省委嘱事業「人権総合学習」研究発表を実施しています。

さつき野中学校



昭和58年4月1日新設、1年生26人、2年生18人、3年生16人でスタート。平成4年文部省の指定を受け、道徳教育研究の発表をしました。平成5年3月21日に創立10周年を迎え、在校生徒数は367人、学級数は11となりました。平成16年、在校生徒数は151人、学級数は普通学級5、養護学級1となります。平成17年度は大阪府内では初めて、さつき野小学校との小中一貫学校が始まります。両校はこれまでも、1小学校・1中学校という地域の特性を活かして教科指導（理科・音楽）や児童・生徒のクラブ交流などにおいて「ふるさと さつき野 地域の宝」のスローガンのもと、連携を深めてきましたが、いよいよ小中9年間を見通したカリキュラムを編成して、一貫教育を進めていくことになりました。

さつき野小学校



さつき野小学校は、昭和58年4月、6学級150人の児童数で開校しました。平成元年には23学級、児童数802人になりましたが、その後、減少を続け平成16年度現在13学級321人です。平成3・4年度には文部省指定を受け、道徳教育推進校として「地域に根ざした実践力を高める指導」小・中連携に立つ計画と実践「のもと」研究を深め、平成4年11月17日研究発表会を持ち、多数の先生方の参加をいただきました。

平成5年、開校10周年記念式典を行い、正門横に「豊かな心」の碑が造られました。平成14年、20周年記念として、芝生の中庭が造られ、子どもたちの笑顔が輝いています。そして今、平成17年度からの小中一貫校に向け、地域と共に、世界に羽ばたく人材の育成に向け取り組みを進めています。

美原町スポーツ施設



総合体育館
競技場/柔道場/卓球室/トレーニング室/会議室
多治井878-1



青少年運動広場運動場
青少年運動広場テニスコート
多治井878-3



海洋センター体育館
競技場/会議室
阿弥377-1



みの池運動広場テニスコート
阿弥377-1



みの池運動広場野球場
阿弥377-1



さつき野運動広場テニスコート
さつき野西2-1474-70



さつき野運動広場野球場
さつき野西2-1474-70

誰もがいきいきと暮らせるまちづくりを



美原総合福祉会館
(黒山782-10)

美原総合福祉会館は、老人福祉センター、身体障害者福祉センターを統合した施設で、ボランティア室・講習室・浴室・教養娯楽室・会議室・大集会室・ゲートボールコート・喫茶コーナーなどの施設を備えています。美原総合福祉会館では、町と社会福祉協議会が毎年開催している菊まつりと老人のつどいや各種講習会など、高齢者福祉、障害者福祉推進の拠点になっています。

みはらふれあい号

美原町で運行している美原町公共施設循環バス「みはらふれあい号」は、町内の主な公共施設に行くことができます。後部には車椅子リフトもあり、車椅子の人も安心して利用することが出来ます。

みはら健康推進センター
(黒山782-11)



すべての住民の健康の保持増進と福祉の向上に貢献し「寝たきりゼロ」を目指します。一次、二次、三次予防まで包括する、一貫した保健事業を推進する施設で、健康診査・健康教育・健康相談、機能訓練、訪問指導及び予防接種などを、総合的に実施しています。

地域でつながり、支えあえる子育て



美原町地域子育て支援センター ひまわり
(北余部26-2)

平成14年、にし保育所内に開設以来「ひまわり」では、「地域でつながり、支えあえる子育て」を意識し、地域での仲間づくりを大切にしながら事業に取り組んできました。年齢別の「子育てひろば」をはじめ、センター開放の「にこにこルーム」、「子育て講座」など、親子で参加できるメニューの充実を図るとともに、子育ての輪がひろがるよう、保育ボランティア養成講座も実施しています。さまざまな地域のみなさんと出会えるつながりの拠点が、「ひまわり」です。地域の妊婦さんから就学前の親子のみなさん、いっしょに子育てを楽しみましょう！



にし保育所
(北余部26-2)

南余部府営住宅の北側に位置し、平成14年開所の新しい保育所です。平成16年度現在の定員230人、産後8週間から受け入れ、一時保育も行っています。所内には明るく、床や壁などあらゆるところに「木」のあたたかさを感じることが出来る施設で、人とのふれあいが存分に楽しめるオープンスペースになっています。さまざまな友だちとの関わりの中で、思いやりやいたわりの心を大切に、地域との自然な交流も活発に行われています。



ひがし保育所
(さつき野東1-4-2)



昭和61年に開所、平成16年度現在の定員は110人です。緑豊かな立地条件のもと、土や草花、落ち葉など自然物を多く取り入れた保育や、子どもたちの豊かな感性や創造性の芽生えを育てるとともに、自分の気持ちを素直に表現する力や、物事に意欲的に取り組む姿勢を大切にしたい保育を心がけています。異年齢の友だちといっしょに遊ぶ中で、優しさや思いやりの気持ちが育まれます。また、園庭開放やサークルなどで地域の方との交流も深めています。



きた保育所
(真福寺141)

静かな住宅街の中にあり、昭和53年に開所、平成16年度現在の定員は110人です。近くには、美原ふる里公園や黒姫山古墳があり、田畑も多く、四季折々の自然にふれながら、のびのびと散歩することができます。保育所の所庭の他に、芝生の広い裏庭があり、緑いっぱいの中を走りまわる子どもたちのにぎやかな笑い声がいっつも響いています。いろんな年齢の友だちと毎日過ごす中で、思いやりや優しさが自然に育ち、さまざまなことにチャレンジする力、まわりの人を思いやる心を育みます。



うるおいとゆたかさの輪をみんなで



中央公民館

中央公民館は、住民の交流・学習の場として、昭和50年に開館した、生涯学習のための施設です。地域住民の教育・学術・文化の向上と健康の増進、生活文化の振興と社会福祉の増進に寄与する事を目的とし、各種の文化活動を行っています。

☆「公民館まつり」子どもフェスタ

テーマを「うるおいとゆたかさの輪をみんなでひろめよう」として、発表会・作品展など多彩なプログラムで毎年開催しています。

児童文化センター

児童文化センターでは、小・中学生を対象として、芸術、文化に関する理解と関心を高め、豊かな情操を養い、自発活動を促進することを目的として、季節に合わせた行事の実施や、教室の開催など、さまざまな事業を行っています。

児童館・地区センター

児童の健全育成を目的に、旧小学校区に1館ずつ建設され、開館以来、学びの場として、硬筆・



毛筆・親子・英会話・茶道・絵画教室などを開講、また、地域に根ざした児童館として、人形劇、和太鼓、大道芸、模擬店、ビンゴ、お化け屋敷などを盛り込んだまつりを、毎年開催しています。

また、地域の協力も得て、ネパール、ブラジル、中国など外国の人とも交流を深めています。

みはらマナビスト館

みはらマナビスト館は、社会教育関係団体の育成や生涯学習推進に関する事業を行うことを目的とし、社会教育関係団体の活動や小グループでの生涯学習活動などに利用することができます。

勤労青少年ホーム

美原町在住、在勤の16歳から概ね30歳未満の勤労青少年（高校生を除く）の個人及びクラブ、サークルに、活動の場所を提供しています。ホームには、料理室、軽運動場、小会議室、和室、集会室、音楽室があります。



図書館

昭和50年に、中央公民館図書室が開室、翌年、児童文化センター図書室が開室し、生涯学習への意欲の高まりとともに、本格的な美原町の図書館活動が始まりました。

52年からは、府内町村では初めての移動図書館初代「くすのき号」の運行が23地区でスタートし、大好評でした。翌年には、「読み仲間の輪を広げよう」をモットーに、美原町読書友の会が発足しました。読書友の会は、「くすのき号」のステーションでの地域のみなさんへの図書の貸出や、受付などを通して、読書の普及活動や公民館図書室の受付業務にも取り組まれました。年4回の読書会や文学散歩、講演会、各種の展示会、子どもたちに読書の楽しさを届けるための、お話会などを運営し、平成15年、町の教育文化功労表彰を受けられました。平成元年には、「くすのき号Ⅱ」が巡回を開始しました。そして、住民のみなさんの熱い思いが実を結び、平成12年、生涯学習の拠点、人と人との交流の場として、美原町立図書館がオープン、子どもからお年寄りまで、毎日たくさん利用で賑わっています。同年、「くすのき号Ⅲ」が巡回を開始し、また、図書館ボランティア



の「ネットワーク」とまと（とし）やかんは まちのともだち」が結成され、図書館を拠点に絵本の読み聞かせや、ストーリーテリング、音訳、点訳、折り紙あそびなどの行事や講座を行っています。平成15年からは、ボランティアのみなさんの協力で、赤ちゃんに絵本の読み聞かせをして、絵本をプレゼントするブックスタート事業が始まりました。これからも、地域の皆様と連携を図りながら、親しみやすい図書館をめざしています。

みはら歴史博物館

M・Cみはら（みはら歴史博物館）は、『カタチ造りの達人』をグランドコンセプトとして、1 日本の中世において、美原の地を本拠地・居住



愛称のM・Cみはらは、Museum（博物館）と、Community（交流）をイメージしています。

地として、他の追従を許さない技術を持ち、かつ、数々の偉業を成し遂げ、現在の日本文化の基礎を築いた鑄造技術者集団「河内鑄物師」
2 24領の鉄製甲冑が出土し、製作方法などを比較検討することで、複数の甲冑製作工人の存在と、彼らを統括・指揮する人物の存在を想定することができ、資料を提供してくれた「黒姫山古墳」を、それぞれのメインテーマとした常設展示室及び企画展・特別展が開催できる特別展示室と、講演会・音楽会・映画会などの催しや、研修会・レセプション等の催しなど、文化・芸術にふれ、交流できるホールとの複合施設です。